



# 九州体育・保健体育ネットワーク研究会 宮崎チキン南蛮ラウンド



## 【期 日】

○ 令和8年1月24日（土）午後2時から5時まで

## 【場 所】

- 宮崎県教育研修センター 研修ホール 12名
- Zoomでのオンライン 4名

## 【内 容】

○ 取組発表

「ひなたの学びの推進に向けた本県の取組  
～体育・保健体育の授業実践を通して～」

宮崎県教育委員会 スポーツ振興課 財津 吉正 指導主事



## 発表内容

- ① 本県の体育・保健体育の授業充実に関する取組
- ② 「ひなたの学び」とは？
- ③ 体育の授業実践



宮崎県の体育・保健体育の授業充実に関する取組として、小学校の体育専科教員の加配措置、体育振興指導教員等の小学校派遣、学校体育実技サポーターの派遣、宮崎県学校体育研究発表大会の開催、授業づくり研修会の実施についての取組発表であった。また、「ひなたの学び」の説明の後、学校の先生方に「ひなたの学び」の視点による授業改善を促すことを目的として、令和6年度に立ち上げた「授業力アッププロジェクト協議会」での実践事例の紹介があった。このような取組等を通して、県内各学校の児童生徒や先生方にも、「ひなたの学び」という言葉が浸透してきたことを感じているところだが、今後も授業づくり研修会の充実を図りながら、「ひなたの学び」を推進する必要があると考えている。県全体で取り組むことで、「未来のみやぎの創り手」の育成につなげたい。

○ ワークショップ

「3つの資質能力を育む単元構造図の検討」

桐蔭横浜大学 佐藤 豊 教授

オンラインの参加者も含めて、4グループに編成し、単元構造図の検討をおこなった。どのグループも活発に意見交換ができていた。また、グループ毎の発表もあり、たくさんの意見や考え方を知ることができ、とても充実したワークショップとなった。

	1	2	3	4	5	6	7	8
	出席確認、健康把握、準備運動							
10	⑤安ま	①バス				タブレットによる見本動画		
20	③能力の仕方	②協力	②行い		②レシーブ	③準備姿勢	④移動	
30	①特性	①特性						
40	ソフトバレーボール	ソフトバレーボール					①課題発見	
	ソフトバレーボール	ソフトバレーボール					タブレット	

○ まとめ

東京国際大学 木原 慎介 准教授

ICTは使えばいいというものではない。今までできなかったことを、ICTを使ってできるようになったということが重要。このように考えていけば、体育における個別最適化の可能性は、十分にあるのではないかと。

日常を俯瞰することで抽象的になるが、俯瞰して現場で実践することを繰り返すことが大事である。

2026.1.24 九州体育・保健体育ネットワーク研究会  
宮崎チキン南蛮ラウンド@宮崎県教育研修センター

まとめ

たまには「森」を見てみない？

～体育振興・体育授業・体力向上・ICT活用の俯瞰～

木原 慎介 (東京国際大学人間社会学部)  
shikiha@tiu.ac.jp



東京国際大学  
Tokyo International University

○ 全体所感

最後に、参加者の皆さんより感想を述べていただき、佐藤先生にまとめていただきました。楽しさを深く味わうために、自分が満足できるところまで楽しさをもっていけるかが、最終的な生涯スポーツのゴールとなる。そのためには、学習指導要領にある3つの資質・能力をバランス良く育成することが大切であること、12年間の系統性、発達の段階を踏まえて、指導内容を体系化していくことの大切さについて話をいただいた。大変充実した会となりました。

文責 宮崎チキン南蛮ラウンド実行委員会事務局 五十嵐 舞